

仙台陣屋かわら版

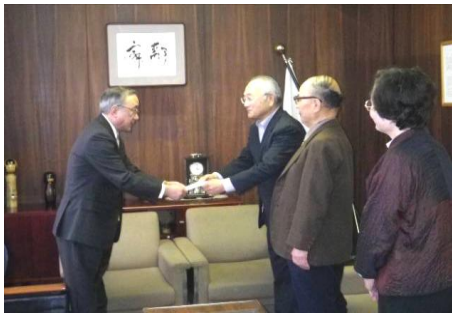
第七十六号

(平成二十三年六月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL/FAX 0144-851266 仙台藩白老元陣屋資料館発行

友の会、寄付金ならびに義援金を寄付

去る四月十五日(金)、仙台藩白老元陣屋資料館友の会により、アカマツ保全の寄付金ならびに、被災した姉妹都市「仙台市」への義援金が町教委に手渡されました。国指定史跡白老仙台藩陣屋跡に残る樹齢一五〇余年のアカマツは、当時を偲ばせるとても貴重な存在です。未永く守っていつと、友の会では二〇〇七年度より陣屋資料館で「赤松せんべい」を販売し、こつこつと益金を積み立ててきました。今年は幹を支えてきた支柱の交換が決



まり、「なごみ」と貯めてきた二十万円を工事費として寄付してくださったのです。また、ご存知のように仙台市と白老町は歴史的関わりが深く、姉妹都市として三十年間、交流を深めてきました。今回の震災は各地に大きな爪あとを残しましたが、一日も早い復興を望む中、友の会では何か支援することができないかと考え、支柱交換の寄付に続き、会員から募った義援金五万円を町に預けたのです。

教育長に寄付金・義援金を手渡した友の会会長川西政幸さんは、「アカマツは白老町の歴史の生き証人。未永く守っていききたい」、「微力だが、今回にとどまらず、これからも仙台市への支援を続けていきたい」と語られました。

アカマツはまさしく白老の生き証人であり、後の世に残していかなければならない大切な存在です。支柱だけが支えているのではなく、大勢の方々によって今日まで支えられ、そしてこれからも支えられていくでしょう。そんな皆に愛されているアカマツを、大切に守っていききたいと思えます。

「こどもの日企画」満員御礼!!

皆さんは、GWいかがお過ごしでしたか?資料館はGW中休まず開館。五月五日には「こどもの日企画」を実施いたしました。五十名以上の家族に参加いただき、とても賑やかな一日でした。楽しい絵本の読み聞かせや、鑑兜の試着体験にゼンバイの手焼き体験など、思



(絵本の読み聞かせ)

い出に残る体験となったのではないのでしょうか。友の会に白老地域文化研究会の皆さん、「抹茶でおもてなし」でいつもお世話になっている先生方、お力添えありがとうございました。今後とも温かいご支援ご協力をよろしくお願ひします。また、貴重なお人形を贈・貸与して下さった方も、心よりお礼申しあげます。

史跡がきれいになりました

四月二十九日(金)に、史跡の枝拾いを実施いたしました。史跡保存会を中心としたボランティアの方々の手により、史跡に落ちていた枝がきれいに片付けられました。枝を拾うことにより、史跡の眺めもよくなり、散歩や花見などに来られた方にも楽しんでいただけるかと思えます。また夏場には草刈もあります。枝が無くなったことで、よりの行き届いた整備を行なえることでしょう。十九名、トラック三台で三時間ほどかけて枝拾

楽しいお話が聞けたかな

いを行ないましたが、改めて史跡の広さを思い知りました。途中で雨に見舞われるなど、寒い想いをされたかも知れませんが、ご尽力くださった皆さん、本当にありがとうございました。



〈朝早くから、有難うございました！〉

” 求む、草むしり ”

あなたの一むしりが史跡を救う!?
これから夏を迎えるにあたり、史跡には他にも大変な作業が待ち構えています。

夏場の草むしりです。草刈機を使えば必要ないと思われるかも知れません。しかし、草刈機が意味を成さない場所が史跡には存在するのです。長屋跡など建物跡を復元した箇所は、ブロックと砂利が敷かれているため、こつこつと根気強くむしらなければなりません。放っておくと草がブロックと砂利を覆い隠してしまい、せっかく再現した建物の間取りなどが見えなくなってしまうます。

今年も皆さんに、草むしりにお力添えをしていただければと思います。昨年も多くの人に支えられ、史跡の景色を守ることができました。ぜひ今年もよろしく願います。ご協力いただける場合は、陣屋資料館までお問い合わせください。心よりお待ちしております。

ゲンキッズ探偵団。資料館を探検

朝から雨のそぼ降る四月三日(土)、ゲンキッズの子供たちが陣屋資料館へ訪れてくれました。その名のとおり、まさに雨雲を吹き飛ばさんばかりの元氣振り。こちらが準備していたクイズ十問も、あっという間に回答してしまいました。クイズの後の説明も、熱心に聞いてくれました。たよ。しかしクイズは簡単に解いた子供たちも、おまけの家紋を探す課題には、見慣れないせいか、かなり苦戦していたようです。

休憩を挟んだあとは、昔のスゴロクを体験してもらいました。松浦武四郎(まつうらたけしろう)作成の「蝦夷道中寿五六(えぞちゅうじゅうすいごく)」は、武四郎が蝦夷地を紹介する目的で描いた、案内図でもあります。みんなには北海道旅行で行きたい場所を先に選んでもらいましたが、港を中心に紹介されていた絵図と、子供たちが札幌や旭川といった現在の大都市を中心に選んだ点が対照的でした。昔の北海道について考えられる、とても面白い資料です。貸し出しを希望される方は、陣屋資料館までお問い合わせ下さい。



PR展 & 企画展が閉幕

三月十九日から開催して参りましたPR展が、五月八日を以って閉幕となりました。皆さんの積極的なご協力により、期間をとおして千五百名を超える方が陣屋を訪れてくださいました。

例年と比べ、やや期間を拡張してお送りしたPR展「あなたと白老、わたしと白老」ひとりひとりの白老町史」。如何でしたでしょうか。町史と個々人の記録を絡めた展示でしたが、古い写真や昔の教科書、学校の校歌や昔の遊び場などをマップにした展示をご覧になり、懐かしむ声なども多数聞こえてきました。資料一つひとつの姿が町の歩みと重なり、そして出展者の記憶と響きあったのではないのでしょうか。

“ 歴史と文化のまち ” を体現した展示でしたが、全体的にはまだまだ資料が足りていません。実際に展示することにより、様々な克服すべき課題となる事柄が見えてきました。今後も積極的に郷土資料の収集に努め、いずれは第2弾・第3弾となる展示会を催せればと考えています。発展する展示会として、最終的には、町民一人ひとりに“ 歴史と文化のまち ” の住人であるだけでなく、その表現者になっていただくことを目指していきます。ご協力、よろしくお願い致します。

「仙台陣屋かわら版 第七十六号 平成二十三年六月」

発行日：平成二十三年五月二十四日(火)

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場